

下野新聞

しもつけ

発行所 宇都宮市昭和1丁目8番11号
〒320-8686
下野新聞社
電話 028-625-1111
郵便振替口座 00180-1-623433
©下野新聞社2019

深刻なギャンブル依存症

回復支援施設立ち上げ

宇都宮の栃木ダルク

薬物依存からの脱却を支援するNPO法人「栃木ダルク」（宇都宮市）は本年度、ギャンブル依存症の回復支援施設を宇都宮市内に開設する。現在、プログラムを策定中で、依存症を受け入れや相談業務を本格化させるのは10月の予定。同法人によると、ギャンブル依存に特化した支援施設は県内で初めてという。栗坪千明代表（50）は「これまでのノウハウを基に関連機関と連携しながら支援体制を強化したい」と話す。

（小林睦美）

プログラム策定 今秋業務本格化

昨年7月にカジノ解禁を含む統合型リゾート施設（IR）整備法が成立し、ギャンブル依存症の認知度は高まりつつある。

「パチンコで借金を繰り返す妻を入所させてほしい」「ギャンブル漬けの父の生活が心配」。同法人にも2017年ごろから相談が寄せられ始めた。借金の尻拭いなどで本人以上に家族が疲弊するケースが多く、18年度の相談件数約10件の大半は家族からという。

昨年7月にカジノ解禁を含む統合型リゾート施設（IR）整備法が成立し、ギャンブル依存症の認知度は高まりつつある。

「パチンコで借金を繰り返す妻を入所させてほしい」「ギャンブル漬けの父の生活が心配」。同法人にも2017年ごろから相談が寄せられ始めた。借金の尻拭いなどで本人以上に家族が疲弊するケースが多く、18年度の相談件数約10件の大半は家族からという。

厚生労働省の「国内のギ

に対応するほか、県内で活動するギャンブル依存症の自助グループとも連携を進める。

栗坪代表は「ドーパミンが脳内に大量に分泌され、依存症になるメカニズムは薬物もギャンブルも同じとされる。苦しむ本人や家族の受け皿として体制を整備していく」と話している。

依存症は、特定の刺激で得た快感や喜びを脳が繰り返し求めるようになり、分の意志ではやめられなくなる病気。回復には適切な治療と支援の継続が必要なる。

推計は約70万人で、約58万人のアルコール依存症より多い。だが、栗坪代表は「行政の対応や一般の認識が甘く、全国的に支援施設が足りない現状がある」と指摘する。

同法人の支援施設は定員10人を予定。薬物依存症の回復支援プログラムと同様、共同生活を通して「身体」「脳」「心」「社会的生活」の回復を段階的に行っていく。入所期間は約1年半。弁護士や司法書士と連携して入所者の金銭問題

ヤンプル等依存に関する疫学調査」によると、ギャンブル依存症が疑われる人の

同法人の支援施設は定員

連携して入所者の金銭問題